

■執筆者紹介（執筆順）

佐藤 史郎（さとう しろう） 1 章、3 章、9 章、12 章、13 章

1975年、大阪府生まれ

大阪国際大学国際教養学部准教授

【主要業績】

『英国学派の国際関係論』（分担執筆）日本経済評論社、2013年

『生存基盤指数——人間開発指数を超えて』（分担執筆）京都大学学術出版会、2012年

『紛争解決——暴力と非暴力』（分担執筆）ミネルヴァ書房、2010年

上野 友也（かみの ともや） 2 章、4 章、5 章、6 章、7 章、10 章

1975年、愛知県生まれ

岐阜大学教育学部准教授

【主要業績】

『戦争と人道支援——戦争の被災をめぐる人道の政治』東北大学出版会、2012年

『グローバル・コモンズ』（分担執筆）岩波書店、2015年

『国際関係のなかの子どもたち』（分担執筆）晃洋書房、2015年

松村 博行（まつむら ひろゆき） 8 章、11 章、14 章、15 章

1975年、大阪府生まれ

岡山理科大学経営学部准教授

【主要業績】

「転換期にある日本の防衛産業」『科学』第86巻第10号、2016年10月

「衰退する米国中間層——オバマ政権の中間層再生政策の限界」『立命館大学国際地域研究』第39号、2014年3月

「製造業再興を目指す米国の試み——オバマ政権のイニシアチブとその限界」『立命館大学国際地域研究』第37号、2013年3月